

資料3

子育て支援事業に関するアンケートの結果について(まとめ)

質問1.子育て支援センターで行われる事業及びイベントのうち、知っているもの。

18人回答

事業及びイベント	知っている と答えた人数	割合
・ 育児相談	16人	89%
・ 誕生日会	9人	50%
・ 絵本読み聞かせ・ふれあいあそび	11人	61%
・ 季節の行事（こどもの日の集い、七夕会、クリスマス会、豆まき会等）	8人	44%
・ 親子音楽会	2人	11%
・ 親子あそび講座（子育てについての専門家を招き、親子あそびを開催する）	8人	44%
・ 親子交流教室（就学前で育児不安を持つ家族に小集団を通して、親と子のかかわりを深めていく。専門家による相談を通じて育児支援を行う）	8人	44%
・ 育児講座（簡単なおもちゃ作りやふれあい遊び等あそびの提供や育児に関する講座等を行いながら、保護者同士の交流を図る）	11人	61%
・ 個別相談（臨床心理士と言語聴覚士による個別相談を実施し、関係機関と連携を図る）	13人	72%
・ 青空保育（公園に出かけ公園遊びをしている親子に簡単な遊びを提供する）	8人	44%
・ 子育て支援ひろば（公立保育施設2園）、 すくすくひろば（神島田公民館） （未就園児親子が各施設を利用して様々な遊びを経験し、友達と触れ合いながら遊べるよう 援助、支援する。また、保護者に対して子育て援助をしたり、育児についての相談を受けたりする）	9人	50%
・ はじめの一步（気軽に支援センターを利用できるきっかけを作るために、相談相手や仲間作りの支援を行う）	5人	28%
・ 子育てサークル育成・支援	4人	22%
・ 子育て情報紙「すくすく」の発行	9人	50%
・ YouTube動画「いっしょにあそぼう!!」の配信	3人	17%
・ 上記すべての事業及びイベントを知らない	0人	0%

質問2.子育て支援センターで行われている事業及びイベントについて、どのような情報発信方法が効果的と思われるかご提案ください。

【主な意見】

・ インスタグラム等のSNSでの情報発信。
・ LINEでアカウントを作成しイベントを通知。
・ 子育てアプリでの情報発信。
・ 携帯電話のメールによる通知。
・ ホームページで告知。また、イベント告知でホームページを更新した際に情報が更新されたことが通知されるような機能を持たせる。
・ ポスターでの告知。
・ 保育所等の公共施設及びスーパーなどの商業施設にチラシを配布する。
・ ケーブルテレビ等での情報発信。
・ 子育て世帯が関心を持つような情報誌を作成し、配布する。
・ 既存の地域情報誌への掲示。
・ 町内会等を利用し回覧や口コミで告知する。
・ 子どもの検診時の待合時間を利用したイベントの告知。

質問3. 津島市が今後した方がよい、してほしい、必要とされる子育て支援事業についてご提案ください。

【主な意見】

・保護者のリフレッシュをメインとした企画を行う。(アロマ、ヨガ等)
・ふれあいバスのルートに保育所等や支援センター、子どもが集まれる場所に停留所を設ける。
・子どもの入学時にお祝いとして学校用品を配布する。
・検診時に保護者が津島市に求めることなどのアンケートを取る。
・夏休みに小学生を預かる事業をさらに拡大する。
・保育所等の施設に内に支援センターを開設する。
・安全な公園の充実及び整備。
・駅前等に子どもを呼び込めるような施設を作る。
・支援センターの利便性の向上。(飲食ができるスペースを作る、利用可能時間の拡大、行きやすい環境づくり、一時預かりを行う等)
・学童保育の利便性の向上。
・民生・児童委員を活用した子育て世帯のサポート。
・各小学校区のコミュニティー及びコミュニティーセンターを利用した居場所づくり。
・子どもがやってみたいことを自主的に企画し、それを大人がサポートし実現を目指す企画。
・夜間保育の実施。
・学校区ごとに未就園児が集まれる場所を作る。
・商業施設と連携した子育て支援事業を行う。

質問4. 男性の育児への参加を促進するためにどのような事業等を行うべきかご提案ください。

【主な意見】

・両親で参加する講座を企画し、子育てへの関心を高める。
・父親の継続的な参加を促す企画を行う。
・父親が活躍できるような体を使った講座、ものづくり講座、料理講座を行う。
・男性講師に家事全般のやり方やコツを教える講座を行う。
・男性が育児に参加するためのアプローチ方法や効果的な声の掛け方を学ぶ講座を行う。
・マタニティ講座を行う。
・託児付きの講座を行い、育児を学ぶ時間を作る。
・男性トイレにおむつ交換スペースを作る。
・休日に子育て支援事業を行う。
・父親同士が交流できる場所やイベントを作る。
・参加ポイント制度を作り参加意欲を高める。
・津島市役所の男性職員の育児制度や育児サポート制度の活用についてレポートを作成し公開する。
・父親と子どもだけの屋外イベントを行う。
・未就学児を持つ父親が月に数日、自宅勤務扱いとして1日育児を行う「イクメンデー」を作り市内企業に「イクメンデー」を実施してもらい、実施してもらった企業には補助金を出す。

【事務局説明文】

- ・ 貴重なご意見をいただき誠にありがとうございました。
- ・ 質問1の子育て支援センターで行われる事業及びイベントのうち、知っているものについては育児相談が一番知名度が高く、その次が個別相談という結果となりました。相談事業以外については知名度が低く、今後の情報発信発信方法について検討していく必要があると思われます。
- ・ 質問2の子育て支援センターで行われている事業及びイベントについての有効な情報発信方法についてはスマートフォンに関連する情報発信方法が有効という意見が多く、その中でも特にSNSを活用するという意見が一番多くみられました。理由としては子育て世代の親はSNSを活用してる人が多く、情報を取得しやすいことが考えられます。また、チラシや情報誌等での書面での情報発信の意見も多く、子育て世帯の親が訪れる施設等で書面での通知、説明できれば有効な情報発信ができると思われます。
- ・ 質問3の津島市が今後した方がよい、してほしい、必要とされる子育て支援事業については支援センターや居場所づくり、学童など子どもの集まる場所についての意見が多く見られました。子どもの集まる施設等については今後も検討する必要があると考えられます。その他にも様々なご意見をいただきましたので、今後の子育て支援事業の参考にしていきたいと思います。
- ・ 質問4の男性の育児への参加を促進するためにどのような事業等を行うべきかについては、子どもとの時間を作る、子育てへの関心を高める等を目的とした父親向けの講座を行うという意見が多くみられました。また、父親だけでなく母親向けや両親向け、託児付きの講座についての意見も多く、講師からの説明や体験で子育てへの関心が高まるのが期待されるのではないかと考えられます。その他にも、様々なご意見をいただきましたので、今後実現可能か検討していきたいと考えております。
- ・ 頂いたご意見、ご提案については有効に活用させていただき、今後の子育て支援事業の参考とさせていただきます。
- ・ お忙しいところ、調査にご協力いただきありがとうございました。